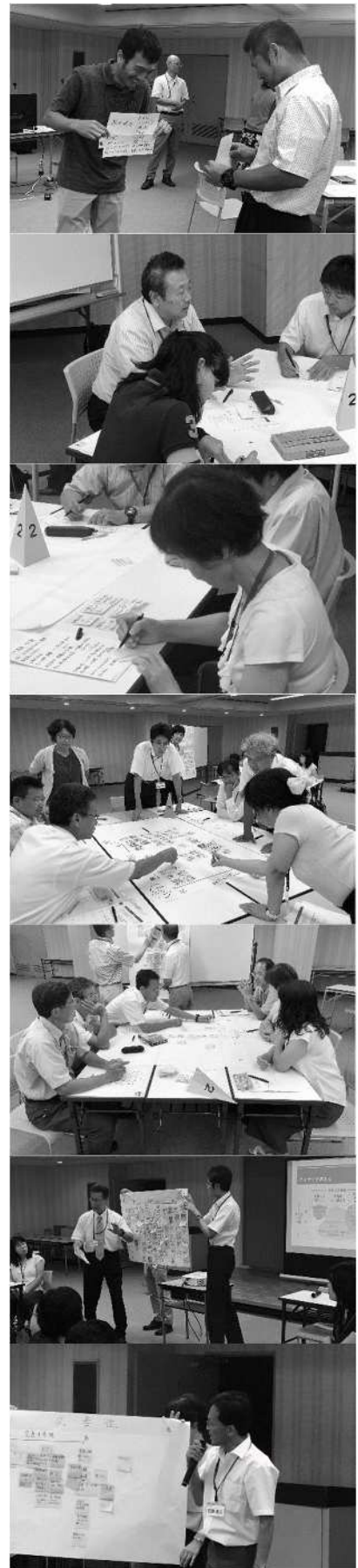


生駒市 教職員の 働き方改革に 関する ワークショップ 実施報告書

平成30年9月
生駒市



目 次

I ワークショップ開催概要	1
II 各ワークショップの内容	2
1. 第1回目	2
2. 第2回目	7
3. 第3回目	10
III まとめ.....	14
1. 仕事の整理とアイデアの結果.....	14
2. アイデアのまとめ.....	15
3. 長時間労働を脱出する！ための〇か条	16

I ワークショップ開催概要

【趣旨】

生駒市学校教育のあり方検討委員会（H30年4月設置）にて教職員の働き方改革について検討するための、情報を収集・整理する。そのため、学校や幼稚園での教育における、働き方の側面からの課題を整理、具体的な取組みを考える。

【方針】

- ・アンケート調査結果（H30年6月集計予定）を活用し、そこからさらに問題を掘り下げていく。
- ・問題の背景にある構造を「見える化」し、課題を共有した上で、解決のためのアイデアを考える。
- ・「各自が（一人でも）すぐにできること（超短期）」「職場・学校で共有して取り組むこと（短期）」「制度として改革が必要なこと（中～長期）」等を意識しながら意見を出す。どんなアイデアも原則として排除しないスタンスで話し合う。
- ・コーディネーターからは、各回の冒頭にヒントになるようなお話しと、閉会時にワークの内容についてのコメントを簡単にさせていただく。

【参加者】 教職員（小学校12人、中学校8人） 20人
合計20人

【ワークショップの実施概要】

●第1回目

日時 : 平成30年8月10日（金）9時30分～11時30分
場所 : 生駒市役所 4階 大会議室

●第2回目

日時 : 平成30年8月17日（金）9時30分～11時30分
場所 : 生駒市役所 4階 大会議室

●第3回目

日時 : 平成30年8月21日（火）9時30分～11時30分
場所 : 生駒市役所 4階 大会議室

Ⅱ 各ワークショップの内容

1. 第1回目

(1) 目標

- ・チームビルディングをする
- ・各自のやりがいや、抱えている理想と現実のギャップを振り返る
- ・課題を洗い出す

(2) ワークの内容

- ・アイスブレイク「教室あるある」
- ・二人組で各自の「やりがい」や、「理想」と「現実」のギャップを語り合うワーク
- ・グループ再編（席替え）
- ・課題出しと整理

※小／中学校混合のグループ編成でスタート⇒途中で小／中学校それぞれ別のグループへ再編成

(3) プログラム

- ・開会
- ・コーディネーターよりお話し
- ・アンケート結果の概要報告
- ・ワークショップ
 - 導入
 - ペアのワーク
 - グループワーク
 - 発表
 - コーディネーターからのコメント
- ・閉会・アンケート記入

(4) 出された主な課題

●小学校教職員

(業務量が多い、教員でなくてもできる業務が多数ある)

- ・多様な仕事
- ・教員間の仕事量の差が大きい
- ・事務処理が多い
- ・研修（校内、校外）が多すぎる

(保護者の対応が大変)

- ・個別対応が必要な保護者が多い
- ・問題対応のマニュアル化が必要
- ・保護者とうまくいかないことがあると、ずっと尾を引くと思われる→心労
- ・子どもについて話し合う時間がない

(コミュニケーションが不足している)

- ・若い先生の意見が通らない
- ・声が大きい人の主張ばかり通る
- ・周りを気にして早く帰れない
- ・職員室でうまく人間関係が出来ない

●中学校教職員

(業務量が多い、教員でなくてもできる業務が多数ある)

- ・教育に直接的でない仕事が増えた
- ・業務の明確化、どこまでが教師の仕事か？
- ・校務分掌の整理
- ・業務の多様さ、仕事の量

(人材が不足している)

- ・非常勤の先生の待遇が悪い
- ・主任と担任の掛け持ちが多い
- ・教諭が減って、講師が増えた
- ・1クラスに必ず担任と副担任が付けるように、教員数を増やす

(休暇・時間が取れない)

- ・年休が取れない
- ・教化研究の時間が足りない

(部活動に時間がとられる)

- ・部活の公式戦引率の代休
- ・部活動支援の担当者を増やす
- ・部活の完全民営化

(5) 成果

小学校教職員1班



小学校教職員2班



第1回ワークショップの様子



2. 第2回目

(1) 目標

- ・仕事を洗い出し、整理する

(2) ワークの内容

- ・仕事の洗い出し・整理
- ・対策を考える

※小学校は前回終了時のグループ編成を基本、中学校は1つのグループに合体

(3) プログラム

- ・コーディネーターよりお話し
- ・進め方の説明
- ・ワークショップ
 - 仕事の洗い出し・整理
 - 対策を考える
 - 発表
 - コーディネーターからのコメント
- ・閉会・アンケート記入

(4) 成果

小学校教職員1班



第2回ワークショップの様子



3. 第3回目

(1) 目標

- ・共有された課題に対して、アイデアを考える
- ・取組み時期（超短～短～中長期）で整理する

(2) ワークの内容

- ・アイデア出し
- ・アイデアの充実
（席替え）
- ・アイデアの確認
- ・取組み時期や取組み方（主体）を考える

※前回終了時と同じグループ編成

(3) プログラム

- ・コーディネーターよりお話し
- ・進め方の説明
- ・ワークショップ
アイスブレイク
前回の振り返り
アイデア出し
発表
コーディネーターからのコメント
- ・閉会

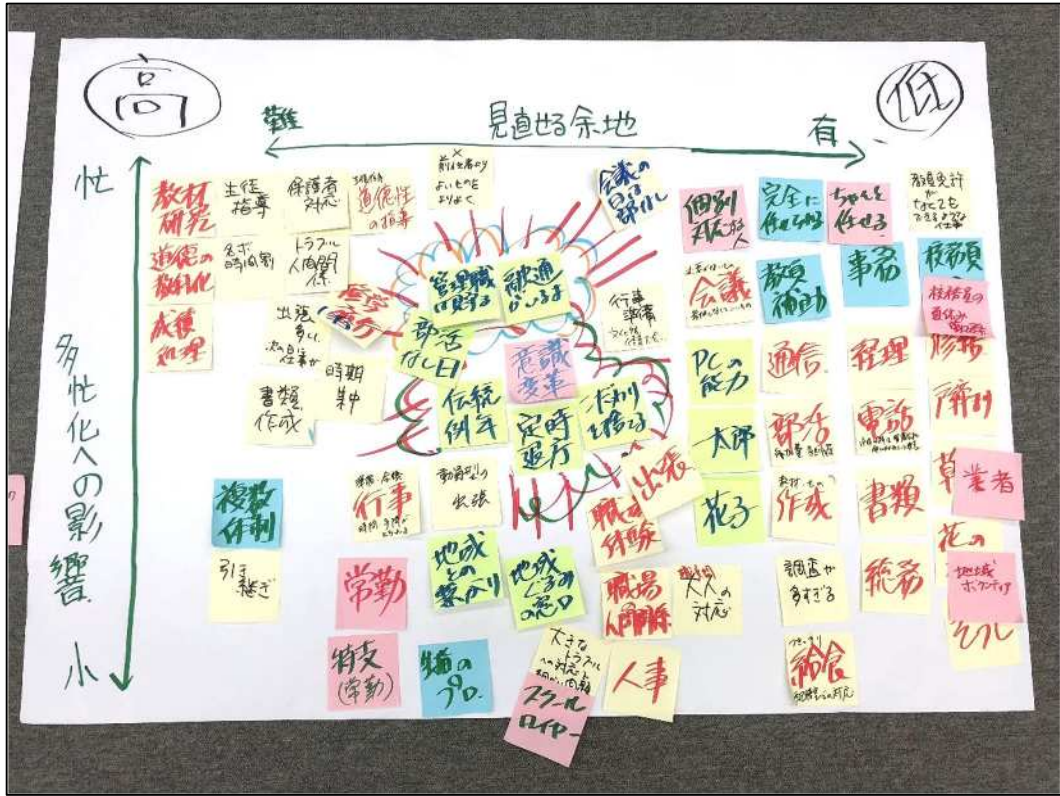
(4) 成果

小学校教職員 1 班



小学校教職員 2 班





第3回ワークショップの様子



Ⅲ まとめ

1. 仕事の整理とアイデアの結果

小学校教職員、中学校教職員により出された仕事の整理とアイデアの結果は以下の通り。

		見直せる余地		
		見直しは難しい	余地は少しはある	見直せる余地が大きい
多忙化への影響	大	ノートのチェック コミュニケーションのためのノートの作成 教材研究 教材共有 保護者対応 教材研究 生徒指導 成績処理 人間関係のトラブル 道徳の教科化	ALT 教師間の打合せ時間 新カリキュラムに向けての準備 行事 名簿、時間割 書類作成 出張	要録 通知表、テスト等の作成 プールの水質管理、設備点検、修繕 教材研究(特に英語) パトロール ICTの環境 健康診断、指導要綱、出席簿の手書き 電気代、水道代の報告 茶道体験 ふるさとミュージアム ゴミの計量 部活 教員免許がなくてもできるような様々な仕事 経理、修繕、戸締り、草刈、花の水やり、掃除、総務、書類作成
	中	大きなトラブルの対応と細かい問題の対応 保護者の対応 道徳性の指導	丸つけ データ入力 部会で話し合ったことを会議に出す(二度手間) 特別教室の管理 修学旅行 行事準備(文化祭、体育大会)	床のワックスかけ 草刈 生き物の世話 交通安全指導 避難所の運営
	小	保護者関係の希薄 情報は拡散しやすい 保護者にきめ細かい対応が要求される 引き継ぎ	保護者対応、日々の連絡帳の対応 親の帰宅時間に合わせた電話、面談対応	対応の方法の相談 給食の失敗 備品の整理(管理) 報告書 アンケート 職場間の大人の対応

青字:小学校教職員 赤字:中学校教職員 緑塗:解決のためのアイデア

2. アイデアのまとめ

小学校教職員、中学校教職員から出されたアイデアを取組期間、主体で以下の通り再整理する。

教職員が主体的に取り組むこと（★印）は、個々人の意識改革から始めることができることと、複数人、もしくは学校全体で取り組まなければならないことがある。また、特定の学校だけではなく、市の全ての学校が一緒に取り組まなければ進めにくいという意見もあった。

教職員主体では解決が難しい、外部の手を借りながら解決していくべきことも挙げられており、これらは教職員だけではなく、中長期的に時間をかけて検討する場を設ける必要がある。

	小学校	中学校
すぐにできること	<p> こだわりを捨てる★ 帰る時間を決める★ 率先して自ら早く帰る★ 掲示板を利用して朝の会議の時間を減らす★ 会議などで話し合う時間をきちんと決める(学年での話し合いの場なら学年主任)★ 終礼を取り入れ、互いに情報共有できる時間をとる★ 保護者からの電話の受付は6時までとする★ 配布物の取捨選択をする★ 部会で話し合ったことを会議で共有しようとするのは、二重に時間がかかるのでやめる★ 市教育委員会訪問のために用意する資料を減らす(そのためだけに作成する資料がある) 必要最小限でこなすか、ほどほどにするか、自分で優先順位をつけて取り組む★ </p>	<p> 定時の帰宅を意識する★ こだわりを捨てる★ これまでの伝統にとらわれず、意識改革に取り組む★ 管理職が意識しながら回りを見守る★ </p>
中期的に取り組むこと	<p> 「書き込み君」をサイボウズで配布 市内の学校が教材の共有をできるように支援(サイボウズで) 市内の学校の、遠足の行き先を一覧にして共有(行き先で悩んだり下調べしなくていいように) 給食の配膳時の失敗を予防するため、食缶やワゴン等の改善をする 給食の見守りを地域ボランティアさんをお願いする 評価基準表を市内で統一する 体験授業を精査する(茶道体験など手間がかかる) 手書きの書類(出席簿、成績処理、指導要録、健康診断)をデータ化できるようにする 校務を分担、洗練する(多くの人がいろんな役を担うのではなく、少ないメンバーで責任をもってやる)★ 要録・通知表・出席簿などの電子化をすすめる 電子化など時短につながるスキルの研修を実施する </p>	<p> パソコンの能力をあげる 地域との繋がりをつくり、地域の人の協力を得る(地域ボランティア) 複数体制で取り組めるようにする(引継ぎの手間を省く)★ </p>
時間をかけて検討する必要があること	<p> 保護者対応の時間を減らす 避難所の開設先の精選(開設するのは大変なのでもっと集約してほしい) 提出する報告書、アンケートを減らす 交通安全指導やパトロールは大事だが時間がかかる </p>	<p> 部活なしの日を設ける 教職員がやらなくてもいいものは業者をお願いする(経理、書類、総務、そうじ、給食、草刈、戸締り、修繕など) スクールロイヤーを取り入れる 特別支援学級の常勤、生活指導のプロなど、専門家を取り入れる </p>

★教職員が主体的に取り組むこと

3. 長時間労働を脱出する！ための〇か条

長時間労働を解決するための第一歩として、それぞれが意識を持つために、各班で「長時間労働を脱出する！ための〇か条」をまとめた。

【小学校教職員1班】

1. 帰ろう！
（帰れるときは）

2. 決めよう！
（会議の時間）（必ず終わる）

3. 見直そう！
（校務分掌）（少人数化）

4. 情報交換
各校のアイデアをシェア

1. こだわりを捨てる(優先順位)
2. 情報を共有する
(教材やデータ・人材等)
3. 帰宅時間を決める
4. 遅い時間の電話はとらない

【中学校教職員】

1. こだわりを捨てる、意識改革
2. 定時退庁に取り組む(市で一斉)
3. 伝統・例年に縛られない
4. 職員会議・研修を月1にまとめて
5. 管理職は融通をきかせて、見守ってほしい
(留守番電話)

資料

1 ワークショップ当日スライド

第1回目

第2回目

第3回目

2 ふりかえりシート of 主な意見

第1回目

第2回目

第3回目

ワークショップ当日スライド（第1回）

教職員の働き方改革に関する ワークショップ

第1回目

自己紹介 「アルパックです」

- 株式会社 地域計画建築研究所、通称アルパックです。
- 行政計画をつくる支援がメインで、市民活動・まちづくりの応援、市民参加の場の運営なども
- 社会課題の解決に向け、幅広く取り組んでいます



小学生向け養育
学習プログラム

全体の流れ（予定）

第1回	<ul style="list-style-type: none"> チームビルディングをする 理想や現実をふりかえる 課題をあらいだす
第2回	<ul style="list-style-type: none"> 問題構造を「見える化」する
第3回	<ul style="list-style-type: none"> アイデアを考える 取組み時期で整理する

※変更の可能性あり

本日の進め方

- チェックイン、アイスブレイク「教室あるある」
- 二人組で各自の「やりがい」や、「理想」と「現実」のギャップを語り合うワーク【ペアのワーク】
- グループ再編（席替え）—
- 課題出しと整理【グループワーク】

「チェックイン」

- ワーク・対話に入る前に、各自がその時の心境を率直に語る（手短かに）。
- ワークでの意見交換にスムーズに取り組めるようにする。
- 期待、不安、考えていること、などなんでも。
- （ウケねらい、見せかけの気持ちは不要）
- 気持ちの準備ができた人から。

アイスブレイク「教室あるある」

自分の名前 (ニックネームOK)	あるあるネタ① ・わざとやってこなかったくせに「宿題忘れしました」と言う
あるあるネタ② ・子どもが書いたにはは うますぎる「夏休みのポスター」	あるあるネタ③ ・・・

ワーク① 「想い」と「現実」のギャップを話し合う

- ペアになり、互いに話しを聞き合う（メモも取り合う）
- テーマは、「教師になりたての頃やそれ以前に描いていた想いや目標」、「現在感じているやりがい」、「実際に働いてみて意外に思ったこと」、「現在うまくいかないと感じていること」など
- 前半に話す人、後半に話す人を決める（各10分ずつ）
- 一聞く人は、話す人の「ストーリー」を書き留める気持で、時には掘り下げるような質問もオススメ（メモは終了後相手に渡してあげる）

ワーク② 課題だしと整理

- 先ほど話したことなどをもとに、働き方の課題と考えることをポストイットに書きだす
- 進ったら書く、幅広くに出していく、なるべくたくさん
- ※赤いポストイットに、1まいに1つの事柄だけ、ペンで大きな字で

ワークショップ当日スライド（第1回続き）

ワーク② 課題だしと整理

- だいたい出そろって来たら
- ①似ているものを近くに貼りなおして、内容を整理する
- ②似ているものの集まりに、名前（テーマ）をつける
- ※「とりあえず」で作業を進めて、修正すればいい（正解はない）
- ③先生の働き方にはどんな課題があるのか確認、ほかにもないかチェック
- （約20分で）

発表

- グループごとに
- どんな課題が出てきたのか、簡単に
- 前半の、ペアでの「語り合い」で、印象に残ったことも添えて

「チェックアウト」

- ワーク・対話の終了後に、各自が感想や学んだことなどを率直に語る（手短かに）。
- ワークで感じたことを共感したり、学びを他者と共有するため。
- 気持ちの準備ができた人から。

ワークショップ当日スライド（第2回）

教職員の働き方改革に関する ワークショップ

第2回目

全体の流れ（予定）

第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・ チームビルディングをする ・ 理想や現実をふりかえる ・ 課題をあらいだす
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仕事を洗い出し、整理する ・ 対策を考える
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・ アイデアを考える ・ 取組み時期で整理する

※変更の可能性あり

本日の進め方

- 「チェックイン」/ アイスブレイク「時間グラフ」
- 前回の振り返り
- 仕事の洗い出し、仕事を整理・分類
- 対策を考える

「チェックイン」

- ワーク・対話に入る前に、各自がその時の心境を率直に語る（手短に）。
- ワークでの意見交換にスムーズに取り組めるようにする。
- 期待、不安、考えていること、などなんでも。
- （ウケねらい、見せかけの気持ちは不要）
- 気持ちの準備ができた人から。

アイスブレイク「時間グラフ」

2つのグラフを描いてください
左には「現実の24時間」
右には「理想の24時間」

「先生が忙しすぎる」をあらためない（結果最後）

前回の意見 見取り図

○仕事が多すぎる
 ・ (授業・準備・アンケート、保護者対応・外注対応、個別指導・・・) 小学校
 ・ (部活動対応、) 中学校
 ○本当に教員がやるべきなの？という作業がある
 ・ (専門外の仕事・社会計画など、設備管理メンテナンス・・・)
 ○できるならなくしてほしい仕事
 ・ (免許更新の手続き・・・)

○コミュニケーションが取りづらい
 ・ 実態に教員研究について話せない
 ・ 職員室内でいい人間関係を築きにくい
 ・ 早く帰りたい

○仕事環境が快適でない
 ・ パソコンが使いにくい
 ・ エアコン・・・

時間が足りない！

- 教材研究の時間が取れない
- 年休が取れない
- 心を病む先生もいる
- こどもと触れ合う時間がない

前回の意見 見取り図

○仕事が多すぎる
 ・ (授業・準備・アンケート、保護者対応・外注対応、個別指導・・・) 小学校
 ・ (部活動対応、) 中学校
 ○本当に教員がやるべきなの？という作業がある
 ・ (専門外の仕事・社会計画など、設備管理メンテナンス・・・)
 ○できるならなくしてほしい仕事
 ・ (免許更新の手続き・・・)

○コミュニケーションが取りづらい
 ・ 実態に教員研究について話せない
 ・ 職員室内でいい人間関係を築きにくい
 ・ 早く帰りたい

時間が足りない！

- 教材研究の時間が取れない
- 年休が取れない
- 心を病む先生もいる
- こどもと触れ合う時間がない

多忙化の6つの「神話」

神話を疑ってかかり、ときには塗り替えるべし

1. 昔からやっていることだから (伝統、慣習の神話)
2. 保護者の期待や生徒期待があるから (保護者と生徒期待の神話)
3. 子どもたちのためになるから (学校に求められる神話)
4. 教員はみんな (後援者一先取り) やつていながら (デジタル・アシスタント、集約型)
5. できる人は勝つから (人材期待の神話)
6. せっかく、わたしが頑張ればよいから (競争心を刺激する学校の神話)

「先生が忙しすぎる」をあらためない（結果最後）

ワークショップ当日スライド (第2回続き)

多忙化の6つの「神話」

神話を疑ってかかり、ときには塗り替えるべし

1. 誰からやっているかだから (印刷、印刷の裏)	●本当にその前回はやらなかった？ 手配もみんなの前でやっているの？
2. 講師者の前後や生徒確保があるから (講師者と生徒確保のプレッシャー)	●その目的、目標のためなら、もっとやり方は見直し可能なはず。さらに生徒確保から始めること。
3. 子どものためになるから (学校にあふれる義務)	●保護者の声って、それ一顧でしょ？ マシなシフト・マシなリソースは別の現場でもかも。
4. 習性はあるんだ (慣習・先例) やっているから (グループ・システム、集約型)	●子どもにとって具体的に何が 子供喜ぶと、なんでも大事になるよ。
5. できる人は誰か (人材確保の敷のり)	●子どものためと思ってやっていることが、結果として期待外れや負担になっていることはない？
6. けっさよ、わたしが頑張ればよいから (習性も変えられる学習の機会)	●子どもも、同僚も大事だけど、自分も大事にしなよ。
	●あつたした問題を壊して、習性も時にはキズつけたいもねえで、人を責めなよ。
	●それは、道義があるかもしれないけど、是非必ず なくともできること。

「先生が忙しすぎる」をあらためない (結果目標)

仕事にまつわる問題の洗い出し

- どんな業務や行事に時間がとられているの？
- どうしてそんなに時間がとられているのか？
- (例：会議が非効率で長い、成績処理の方法が煩雑で時間をとる、部活動の時間が長い、お金の取り扱いが時間をとる、など)
- 長時間労働につながっている問題をすべて書き出す

※黄色いポストイットに、1まいに1つの事柄だけ、ペンで大きな字で

仕事を仕分け

必要性 大 ← → 小

仕事を仕分け

必要性 大 ← → 小

仕事を仕分け

必要性 大 ← → 小

ある程度必要性が高い

見直せる余地

①思い切ってやめられないか

多忙化への影響

多忙化への影響	見直せる余地
大	見直せる余地が大きい
中	見直せる余地が小さい
小	見直せる余地がほとんどない

仕事を仕分け

必要性 大 ← → 小

ある程度必要性が高い

見直せる余地

①思い切ってやめられないか

多忙化への影響

見直せる余地があり、多忙化への影響が大きいものを優先的に見直す

どんな対策があり得るか？

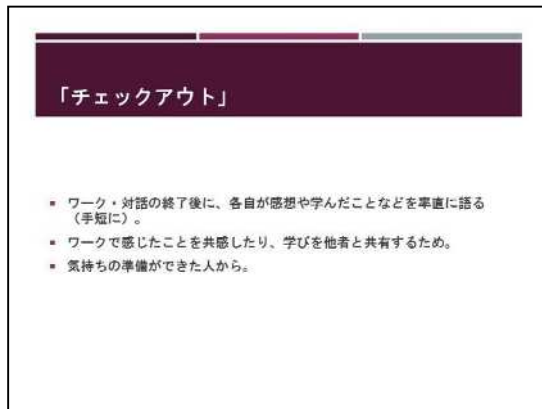
- ①他の誰かにやってもらえないか (※赤のポストイット)
- 誰にどう分担してもらうか
- 岡山県の事例：「教師業務アシスタントの活用」
- 先生たちの業務の一部を手伝う (印刷代行、学校徴収金事務など)
- ②教員がやる仕事 → どう生産性を高めるか (※青いポストイット)
- 事例：自己評価カードのコメント記入方法を、チェックボックスに、こどものモチベーションもアップ

「実現できそうか、できなさそうか」は置いておいて、アイデアを書き出す
※正解はないので、思いついたことを素直に表現してください

発表

- グループごとに
- どんな課題が出てきたのか、簡単に
- 前半の、ペアでの「語り合い」で、印象に残ったことも添えて

ワークショップ当日スライド（第2回続き）



「チェックアウト」

- ワーク・対話の終了後に、各自が感想や学んだことなどを率直に語る（手短かに）。
- ワークで感じたことを共感したり、学びを他者と共有するため。
- 気持ちの準備ができた人から。

ワークショップ当日スライド（第3回）

教職員の働き方改革に関するワークショップ

第3回目

全体の流れ（予定）

第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・チームビルディングをする ・理想や現実をふりかえる ・課題をあらいだす
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事を洗い出し、整理する ・対策を考える
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・アイデアを考える

※変更の可能性あり

本日の進め方

- 「チェックイン」/ アイスブレイク
- 前回の振り返り
- アイデア出し
- 「チェックアウト」

「チェックイン」

- ワーク・対話に入る前に、各自がその時の心境を率直に語る（手短に）。
- ワークでの意見交換にスムーズに取り組めるようにする。
- 期待、不安、考えていること、などなんでも。
- 〈ウケねらい、見せかけの気持ちは不要〉

アイスブレイク「タイムテーブル」

スケジュール イメージ

- 勤務時間のタイムテーブル（目標）を作成しましょう（出勤してから帰宅するまで）
- 【やり方】
- やるべきことをリストアップ。いつ、どれくらいの時間をかけるか計画。一日に収まりきらなさそうなら、優先順位をつける。
- 【お題】
- 「本日のスケジュール」

スケジュール イメージ	
＜本日の予定＞	
9:00-10:00	部内会議
10:00-11:00	Aプロジェクト資料作成
11:00-11:30	B社電話・メール返信
11:30-12:15	C会議資料作成
12:15-13:00	昼食
13:00-13:20	部長の決意をいただく
13:30-14:45	D会議
14:45-15:30	メール確認
15:30-16:30	E会議資料作成
16:30-17:00	Fさんに相談

https://workkiss.com/2018/05/07/time-management-for-tdr/

【前回】仕事の仕分け

【前回】仕事の仕分け

アイデア出し

- **①工夫できそうなこと**
- 一明日からでも取り組めることは何か考える

【視点】

- 一人ですること
- 教員仲間でも共有し一緒に取り組むこと

1回目に

- 「あなたご自身（フロントとか）をやめる」
- 「時間を区切る」
- 「教員仲間でも共有し一緒に取り組むこと」
- 「助け合い」「引継ぎ時の混乱」
- 「コミュニケーション」

【ヒントにすること】

- すでに自分が心掛けていること
- 各校で工夫していること

ワークショップ当日スライド (第3回続き)

アイデアだし

事例：自己評価カードのコメント記入方法を、チェックボックスに、こどものモチベーションもアップ

アイデアだし

- ①工夫できそうなこと
- 一明日からでも取り組めることは何か考える

【視点】
一人のできることを
教員仲間で共有し一緒に取り組むこと

●一人で
1回目に「要なごだわり(フォントとか)をやめる」
出した「時間を区切る」
課題も ●教員仲間で
確認 「助け合い」「引継ぎ時の混乱」
「コミュニケーション」

【ヒントにすること】
すでに自分が心掛けていること
各校で工夫していること

長労働時間を
脱出するための
〇カ案
にまとめる

アイデアだし

- ②ほかの人にやってもらえないか
- 一どんな人にどういう風に分担してもらうか、具体的に考える
- 岡山県の事例：「教師業務アシスタントの活用」
- 先生たちの業務の一部を手伝う(印刷代行、学校徴収金事務など)

- ③見直しが難しいこと(保護者対応、生徒指導)
- すぐには見直しは難しいが、あきらめない
- アイデアがあれば書く

アイデアだし

発表

- グループごとに
- 仕事の仕分けの結果
- でてきたアイデアの概要
- 「長労働時間を脱出するための〇カ案」

「チェックアウト」

- ワーク・対話の終了後に、各自が感想や学んだことなどを率直に語る(手短に)。
- ワークで感じたことを共感したり、学びを他者と共有するため。

ふりかえりシートの主な意見（第1回）

Q1 このワークショップに参加した理由や期待することを教えてください

（働き方改革の具体化に対する期待）

- ・私たちが課題で出したことを基に提案がなされ、実現されるのか期待したいです。
- ・課題解決の具体的事案を市で実行できたらいい。
- ・何か一つでも、現在の困りごとがなくなればと思う。
- ・働き方改革に具体的な方策が見えてくるか。
- ・このワークショップでまとまったことを、一つでも市の方で実現していただきたい。
- ・今回出された意見から、より働きやすい職場になるような改革が進めばいいと期待しています。
- ・教育長がおっしゃられていたこの2年間での教育現場の劇的な変化を期待しています。

（意識改革）

- ・少しでも自分がまず、働き方改革に向けて考えたいです。
- ・働き方を改革しないと、若い先生たちがこれからどうなっていくのか不安だったので、どんなふうにして改革できるのか、興味がありました。
- ・働き方改革（本当に意味での）が成し遂げられるよう、しっかり課題を洗い出し、新たな方法の構築（チームビルド）ができたらいいと思います。

（その他）

- ・学校長に声をかけられ、参加しました。
- ・教頭に依頼を受けただけであるが、参加させて頂き、良かったので、次回はさらに充実することを願います。
- ・管理職から言われて参加した。何かすぐ出来ること、してもらえないか聞かせてもらえると嬉しい。

Q2 本日のワークショップはいかがでしたか？

1 新しい出会い・つながりができた

（共感）

- ・他校の先生と話が出来て、同じ思い、考えがあって、参考になった。
- ・様々な先生方の本音、そして共感が出来た。
- ・他校の教務主任と話せて、教務の仕事について意見交換することができた。
- ・同じ思いを持った先生が多い。
- ・気軽に話せる同業者と出会えた。

（校種をまたいだ交流）

- ・普段あまり話さない中学校の先生とお話が出来た。
- ・中学校の先生と同じ想いでつながれた。
- ・小学校の先生の話の聞いた。

（その他）

- ・懐かしい方々と再会できた。
- ・生駒市にきて1年少しの為、いろいろな先生とお話が出来てよかったです。若手の研修でも、もっとこのような研修があればよいと思います。

2 新しい発見や気づきがあった

- ・どの先生にも考えていること、不満に思っていることに共通点があることが分かりました。
- ・ほかの教師と同じ思い。
- ・小・中校種が違っても、同じ悩みや苦労があることが再確認できた。
- ・小・中を問わず、思いは同じなんだと実感した。・ICT導入による仕事の一極集中化！
- ・校種により悩みは違う。同校種は悩みも同じ。
- ・中学校の現状を聞くことができ、良かったと思います。
- ・小学校のしんどさがわかった。
- ・小と中で意見が違うところがある。
- ・中学校の部活の占める大変さ。
- ・同年代の意見で、部活・業務・研修・定数などすべて心に響きました。
- ・皆同じようなことを思っているのに、日頃話題になることすら少ない。
- ・免許更新不必要。

3 心に響いた意見がある

- ・終わろうとしたら終われるのに、つい仕事をしてしまう。
- ・こだわりがある（教師として）人がいるということ。
- ・「働き方改革は、お金予算改革！」も多分にある。
- ・結局「人」が増えたらと思う。
- ・教師間の交流の大切さ。
- ・子どもとふれあう時間がエネルギー源となる。
- ・保護者対応では、率直にごまかさずに向き合っていくことを紹介で話されたのには共感した。

4 楽しい時間を過ごせた

- ・思いを共有できた。
- ・話を自然に出し合えてことが楽しかった。
- ・思いを吐き出し、共有することができた。
- ・自由にはなしが出来たことが楽しかったです。
- ・多くの先生と話が出来たこと。
- ・改善点の洗い出し。
- ・少し戸惑いつつも、新鮮な感覚でした。

5 もっと意見交換したかったことがある

- ・各校で改善してよかったことを聞きたい。
- ・最後に通知票のデジタル化について、少しお隣の先生と話したので、続きを話したかった。
- ・どんなことができたなら、業務軽減できるか。
- ・人、モノ、金の確保について、もっと議論したかった。
- ・それぞれの現場の実態について、情報交換をしたいと思います。
- ・中学校で共通した悩み、不満をまとめて、改善に役立ててもらいたい。
- ・部活動のあり方。
- ・実際に改革していく上で、どのようにしていく必要があるのか。

ふりかえりシートの主な意見（第2回）

Q1 本日のワークショップはいかがでしたか？

1 新しい発見や気づきがあった

- ・中学校のテスト自作の現実を知れた。
- ・意外と頭がかたく、「難しい。そんなに単純ではない」という思いにとらわれてしまっていることに気がきました。
- ・新しい目をもって考えれば、今まで思いもしなかった点で負担を減らせていけるのではないかと思えました。
- ・改めて、教師の仕事の多様さとしんどさに気付かされた。
- ・企業ならば番う部署の仕事、一人で行っていると思った。
- ・保護者の対応について、事務処理について等、見直す余地があることに改めて気づかされました。
- ・お金と人がやはり足りないこと。
- ・各校の事務システムに差異があったこと。
- ・教師でなくても出来ることをたくさんやっていること。
- ・他校の先生方も、共通の認識を持って改善したいと思っていることが分かった。
- ・中学校の先生の様子が分かりました。
- ・知らない、見ていないところの仕事内容や実態がわかった。
- ・固定概念を変えていくことの大切さ。思い込みは後退につながる。
- ・人それぞれ皆意見が違って、難しいと改めて感じました。
- ・他の先生方と考え方の違いがあること、そこから学びがあること。
- ・他府県でスクールロイヤーの配置があるということ。
- ・同じ考えを、様々な言葉で聞くことができた。

2 心に響いた意見がある

- ・保護者対応の仕方を学ぶ研修があればよい。
- ・保護者対応にとっても苦慮している。
- ・行事の精選をどの学校も考えるけれど、現実としてなかなかやめられないこと。
- ・多忙化への影響という視点でとらえること。
- ・人とお金が必要だということ。
- ・ないものねだりの意見になってしまっていないか、と気になる。
- ・前倒しがあるからやる、はやめよう。
- ・人材育成の立場に立つ必要性。
- ・生徒指導はすべきこと、教材研究はしたいこと。

3 楽しい時間を過ごせた

- ・いろいろな考え方を知れたこと。
- ・どれも似たことで悩んでいる。
- ・いろいろな学校の声で、交流できたこと。
- ・自分が大変だなと思っている内容について、共感してもらえた。
- ・各校の先生と情報が共有できたこと。

- ・もしかしたら改善されるかもしれないという期待感。
- ・小学校の先生方とも話せた。
- ・ざっくばらんにいろんな思いを聞けた。

4 もっと意見交換したかったことがある

- ・いろいろ学校でしていること（参考になるかもしれない）。
- ・各校の具体的な取組について交流して、掘り下げることでもしてみたかったなと思いました。
- ・学校ごとで、どこが違うのかももっと話したかった。
- ・他中学校の仕事の実態。
- ・異年齢の先生方との意見交換の場があれば、また違うものが見えてくるかも。
- ・具体的な対応策を探す。

Q2 その他、言い足りなかったことがあれば教えてください

- ・表にあてはめる作業（評価）が効果的であると同時に、難しさが時間とられる。
- ・「これは本来教員の事務なのか！」ということが課せられている現状をもっと広く社会で取り上げ考えていかないと、根本的な解決にはならない。
- ・多様な仕事があるので、テーマを絞れば中身の濃い議論ができる。「出ていないことも」と言われると薄い議論になると思う。
- ・この場で言ってもどうにもならないのですが、現場の声を行政の方でぜひ反映させて頂きたいをお願いします。
- ・次回に向けて、アイデアの基になりそうな提案。
- ・大きく変える勇気を持つことが大切。
- ・生駒市として取り組んだ働き方改革なので、是非実行してください。
- ・この時間が無駄にならないことを願います。

ふりかえりシートの主な意見（第3回）

Q1 本日のワークショップはいかがでしたか？

1 新しい発見や気づきがあった

- ・ちょっと意識が変わったかと思います。
- ・成績処理の各校の状況。
- ・人数が多いと色々な意見が出る。
- ・教務が悩んでいることが共通しています。
- ・各校での取り組みやアイデアを共有できた。
- ・自分と同じ悩みを持っている人がたくさんいること。
- ・各校で共通した大変さがあって、もっと連携することで解決できることもありそうな点。
- ・アイデアがあっても、他校がしていないと突っ込まれる。
- ・自分以外の中学校の現状が分かった。
- ・こだわりに対し、そこから離れることの大切さ。
- ・改めて改革の難しさに気付きました。
- ・小学校と中学校の状況の違いが知れた。
- ・管理職によって、休みのシステムが大幅に異なること。
- ・以前は同じ行事量でも早く帰ることができたこと。
- ・意識改革とともに制度的な面については、市をあげて足並みをそろえていくことが必要。

2 楽しい時間を過ごせた

- ・他の学校の先生と情報交換出来て楽しかった。
- ・同じ立場の人の悩みが聞けました。
- ・思ったことを素直に話すことができる雰囲気があり、良かったです。
- ・各校でされていること、たくさんの先生方のアイデアや考えなどを交流したこと。
- ・それぞれの思いを出し合えたこと。
- ・情報共有できたこと。
- ・みんな同じ思いを持っているので、話が合った。
- ・他校の先生と忌憚のない意見を交換出来た。
- ・各中学校の課題や取組を自由に会話できたこと。
- ・同じ思い、同じ困りを共有できたこと。
- ・ほぼ全員の思いが同じであった。
- ・様々な各校の情報を知ることができてよかったと思います。

3 心に強く響いた意見がある

- ・時間を決めた話し合い→守る→一人一人が意識する
- ・帰るのがやたら遅い教員はどこにでもいそう。
- ・これから学校を超えて、市として仕事がまとまる。
- ・人とお金が必要なことも多いが、意識改革で変わる部分もあります。
- ・各校教務の先生方もいろいろ悩んでおられることがあり、情報交換の場が欲しいという意見に共感しました。

- ・草の根の取り組みが機運となって、大きな取り組みにつながる。
- ・こだわりを捨てる。年をとると自分のやり方にこだわってしまう。
- ・市一斉に、県一斉に。
- ・定時に帰ろう。

4 職場で生かしたいと思ったことがある

- ・時間管理。
- ・帰れるときは帰る。
- ・早く帰ることを伝えることができる。
- ・会議の時間を決める等の取り組みをしてきたいと思いました。
- ・みんなで話し合った4か条を伝えたい。
- ・こだわりを捨てる→優先順位を決める
- ・時間を決めて仕事をします。
- ・一日の予定を立てる。優先順位を決める。
- ・今回みんなで考えたことを伝えていきたい。
- ・定時退庁。18時以降の電話対応。
- ・年齢の上のものが、働くことへの考え方・姿勢をいい形に変えていくこと。
- ・4ヶ条、“こだわりを捨てる”から取り組んでいきたい。
- ・定時退庁。
- ・職員の横の関係を強め、協力して働き方を改革していきたい、と考えました。
- ・職員室で働き方改革の意識を高めていくことが大切で、不可欠であると思った。

Q2 このワークショップ全体を通して、感想や言い足りなかったことがあれば教えてください

- ・市で統一してできること、可能なことは何か。
- ・担任を持っている人、帰るのが遅い人を集めてしてもらいたい。
- ・今回は管理職（教務）の先生が集まりましたが、中堅の先生が集まったり、新任の先生が集まって、話し合ってもいいと思いました。
- ・長期勤務をした方が楽な先生方もおられることが気になります。
- ・是非とも教務主任者会議を毎学期開催してもらいたい。
- ・ベテランが多かったし、管理職が多かったので、管理職・ベテラン・若手が意見を交わせる場が必要だと思う。
- ・若い人たちの考え（年代別）も聞いてみたかった。
- ・国が現場の意見を聞いて、率先して人と物を導入してほしい。
- ・このワークショップで出た意見で、お金のかかる項目の実現をぜひ実現してほしい。「教育には金がかかる」、お金をケチったらよい教育は出来ない。
- ・勤務時間や年休の制度を管理職裁量にするのではなくて、統一できないかと感じた（融通きくように）。
- ・行政のある程度の強制力を持って、教員の負担軽減に努めていただきたい。
- ・ドラスティックな変革は意識を変えるだけでは難しいかもしれないと感じました。